

ふれあい通信



横田 新作

- 南田原井出身
- 埼玉支部

故郷は遠きにありて思うもの

生まれ育った故郷を離れて、はや半世紀近くなり、実家も今や父母や兄も亡くなり、帰る機会を失い、歳と共に段々と故郷から足も遠くなってきてしまいました。寂しいことではありますが、今でも故郷で培ってきた数々の思い出が今を生きる糧となっています。歳を重ねるに連れて、「ふるさととは遠きにありて思うもの」という句が身にしみて感じられるようになりました。

今でも懐かしく思い出すのは小・中学校の頃のことです。小・中学校の頃の通学は、いつもいくつもの山を越える山道でした。その山道を毎日通るのは私だけでした。小学生の頃は祖母がおりまして、毎日5円か10円お小遣いをもらっ

ており、当時1円で大きなあめ玉が買え、10円で今よりも大きなアンパンが買えました。学校帰りに買って山道を歩きながらよく食べていました。それに当時の山は自然が豊かでしたので、春夏秋冬といろいろなことが楽しめました。特に夏と秋はおいしい山の幸が取れ、グミ・山葡萄・山梨・栗・アケビなどお腹いっぱい食べられました。冬は今と違ってひざくらいまで雪が積もったので、竹スキーやそりで遊んだりもしました。本当に懐かしく楽しい思い出です。故郷の大自然に抱かれて育ててもらったような気がします。

豊かな自然と父の趣味だった造園の影響で、介護の仕事と一緒に去年から造園業を始めました。介護は月9回の夜勤なので、その合間に格安で剪定などの造園の仕事をしています。あまりに安いので口コミで広がり、若い人たちからも依頼がきて楽しくやっています。また介護の関係から障がい者団体の年2回の旅行にもボランティアとして参加させていただき、各地での温泉旅行を楽しませてもらっています。

現在の私がこのように元気に過ごせているのも過去に受けた故郷の豊かな自然とそこに暮らしている人たちの温かさのおかげだと思っています。いつも帰郷すると温かく迎えてくれる故郷、いつまでも変わらずいてほしいものです。

心のよりどころ「ふるさと小野町」～ふるさと小野町会総会～

ふるさと小野町会(佐藤武臣会長(夏井出身・神奈川県在住))の平成30年度総会が5月20日、埼玉県戸田市文化会館で開かれました。

総会には関東圏に在住する会員のほか、小野町から町長、村上議会議長、吉田商工会長、二瓶観光協会長、緑川ふるさと暮らし支援センター理事長など、総勢70人が出席し、小町ふれあいフェスタへの参加や来年度に控えたふるさと小野町会創立20周年記念事業、会報の発行など今年度の事業内容が承認されました。

さらに総会には、戸田市の菅原市長が来場し、祝辞をいただきました。

総会の終了後、引き続き交流会が開かれ、小野町での思い出話や互いに近況を報告し合うなど、終始和やかな雰囲気の中で交流を深めました。



参加者で大合唱(交流会)